

植 調 協 会 だ よ り

◎植調研究所報告

平成11年度水稲用除草剤沖縄基礎試験の実施状況

1. 目 的

本年試験が計画されている一部の水稲用新規除草剤について、適用性試験の実施に先立ち、除草効果および薬害、さらには製剤間の比較検討を行うことによって、薬剤の特性を把握し、第二次適用性試験が効率的に進められるための知見を得ることを目的とする。

また現地圃場において、既存薬剤のジャンボ剤化に伴う除草効果等の確認ならびに製剤間の比較検討についても検討する。

2. 耕種概要

(1) 場内試験

- ① 試験場所：沖縄県名護市偽又
- ② 試験期間：平成12年1月～3月
- ③ 栽培法：稚苗移植栽培
- ④ 試験規模：1区0.8m² (1m×0.8m) 2区制
- ⑤ 水稲関係

i) 植 代：1月20日

ii) 移 植：1月24日 (1株3本植, 1区当り15株手植え)

但し、-4処理区については1月28日移植

iii) 品 種：ひとめぼれ

移植苗：移植前処理区 葉齢2.3L (草丈17.6cm 地上部乾物率 20.2%)

移植後処理区 葉齢2.1L (草丈16.5cm 地上部乾物率 16.7%)

⑥ 雑草関係

雑草播種：1月23日

試験圃場での自然発生はホタルイが主であるが、その他ノビエ、ホタルイを土壌表面に播種し、タマガヤツリ、コナギ、その他一年生広葉雑草種子およびマツバイの混入土を播き込み、ウリカワ、ミズガヤツリの塊茎を1区当り各5個植え付けた。

⑦薬剤処理時の雑草および水稲の生育状態：

処理時期	月日	ノビエ	タマガヤツリ	コナギ	他広葉	マツバイ	ホタルイ	ウリカワ	ミズガヤツリ	水稲
-4	(1/28)	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	—
+0	1/24	"	"	"	"	"	"	"	"	2.1L
+3	27	"	"	"	"	"	"	"	"	2.2L
+5	29	発生始	"	"	"	"	"	発生始	発生始	2.3L
レ1.0L(+15)	2/ 8	～1.0L	"	発生始	発生始	"	発生始	～0.5L	～1.0L	2.8L
レ1.5L(+17)	10	～1.5L	発生始	"	"	"	～1.0L	～1.0L	～1.5L	3.2L
レ2.0L(+23)	15	～2.0L	～1.0L	～1.5L	～1対	"	～1.5L	～2.0L	～2.0L	3.5L
レ2.5L(+28)	20	～2.5L	～1.0L	～2.0L	～2対	"	～2.0L	～2.5L	～2.5L	4.1L

(2) 現地圃場試験

- ① 試験場所：沖縄県名護市古我地
- ② 試験期間：平成12年2月～3月
- ③ 栽培法：稚苗移植栽培
- ④ 試験規模：1コ/a 1区100～200m² 2区制
- ⑤ 水稻関係
 - i) 植代：2月8日
 - ii) 移植：2月11日（機械移植）
 - iii) 品種：ひとめぼれ
 移植苗：葉齢2.0L（草丈14.8cm 地上部乾物率 18.3%）
- ⑥ 雑草関係

雑草播種：2月13日

試験区内に設定したA, B, C, D点の4ヵ所に休眠覚醒したノビエ、ホタルイ種子を土壌表面に播種し、タマガヤツリ、コナギ、その他一年生広葉雑草種子およびマツバイの混入土を播き込んだ。

⑦ 草剤処理の経過および雑草、水稻の生育状態：

処理時期	月日	ノビエ	タマガヤツリ	コナギ	他広葉	マツバイ	ホタルイ	ウリカリ	ズガヤツリ	水稻
+3	2/14	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	2.1L
+5	16	"	"	"	"	"	"	"	"	2.3L

3. 試験経過と気象概況

本年度の場内試験の移植は例年と同時期に実施されたが、移植後、曇天や雨の日が多く、7～10日間は例年に比べ、2℃程度低い気温で日照時間もやや少ない状態で経過したものの、水稻および雑草の葉齢進展は例年と変わらない状況である。

現地試験においては、移植は昨年より2日早く行われたが、気温は平年並みに推移しており、2月29日の時点までは特に問題はない。

なお2月29日、処理後の降雨によるオーバーフロー等はない状態で経過している。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188 (代)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 千坂 英雄
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)3833-1821番(代)
印刷所 新 成 印 刷 所 (南)

平成12年3月発行 定価420円(送料270円)
植調第33巻第12号 (本体400円, 消費税20円)